

9月の行事予定

- 1日～15日：各地区例祭
9日（水）つながるんるん広場
27日（日）総合防災訓練
30日（水）ハローワーク巡回

荘川体育館・荘川ドーム・荘川グラウンドのご利用は「荘川町まちづくり協議会」の公式LINEでも受付けしています。→



高山市図書館荘川分館

【人生100年お金の備え】
「シニア世代の「明日に備える経済」
として年金・相続・終活などに関する
資料を集めました」
【9月休館】7日（月）24日（木）
28日（月）



【祝:全国大会出場!】剣道大会

野々俣の野口 鈴央さん（荘川さくら学園9年生）が、7月28日・29日に東京・日本武道館で開催された「第60回記念全国道場少年剣道大会（中学生の部）」に、飛騨清見聖心館道場の選手として出場しました。大会への出場にあたり、まちづくり協議会を代表して中田会長から激励の言葉を贈りました。全国の舞台上で日頃の練習の成果を発揮する野口さんの、今後ますますの活躍を応援しています。



【高校陸上!】第76回飛騨地区高等学校総合体育大会 7/18

男子 円盤投げ **2位** 山下兼汰（飛騨高山高校）記録:25m81
男子 砲丸投げ **5位** 山下兼汰（飛騨高山高校）記録: 8m94
男子 砲丸投げ **8位** 山下瑛太（飛騨高山高校）記録: 7m04



【地区総体】バドミントン大会 7/19

【地区総体 7/19】

女子団体戦

優勝 飛騨高山高校（三島紗貴帆）

2位 高山西高校（遠所礼望・田口亜弥）

【市民バドミントン大会 7/26】

女子ダブルス 2部 優勝 三島琴音



【高山西商工会】オオハングウソウの駆除 7/23



高山西商工会会員約20名が、松の木峠周辺2kmのオオハングウソウを駆除しました。近くで進む六蔵産廃建設計画に対し、「豊かな自然を守りたい」という願いも込めた活動です。朝早くからの作業、お疲れさまでした。



【広報委員】丸山 浩一・坂上 剛・橋本 徳博・佐々木 羽玲

◇荘川町まちづくり協議会事務所 TEL & FAX 05769-8-6005 ✉showkawamck@hidatakayama.ne.jp

広報しょうかわ

NO.136 2026年8月号
発行日:令和8年8月20日



【250年を超える物語】新島研修 7/20~22

新島村の小学生と交流会



バナナボート



旅館：大野屋にて



海の子山の子交流事業として新島研修を開催し、荘川さくら学園の6年生7人が参加しました。地元の小学生との交流やバナナボートを楽しんだあと、甚兵衛さんのお墓をお参りました。天候にも恵まれ、新島村の方々は温かい環境で出迎えてくださいました。子どもたちは終始満足そうな顔で3日間を過ごすことができました。



令和8年7月31日現在
()内は前

人口と世帯

総人口	927 (-4)	総世帯	406 (-1)
男	444 (-2)	女	483 (-2)

【新島物語】荘川町と新島村の関係

白川郷一色村（現在の荘川町一色地区）に生まれた上木甚兵衛（うわき じんべえ）さんは、縁あって**高山市内の上木家に婿養子**として入りました。

安永年間に起きた「大原騒動」で幕府の検地政策に反対し、高山の町人としてただ一人、**伊豆の新島へ流罪**となりました。このとき、甚兵衛さんは63歳でした。

新島での生活の中で、甚兵衛さんは島の子どもたちに読み書きを教えたり、教養のある島民と交流して俳句の会に参加したりして過ごしました。また、上木一族から送られてくる年間10両ほどのお金の中から寺の本堂へ寄付するなど、島の人々のためにも力を尽くしました。

こうした人柄から、島の人々には親しみを込めて「**飛騨んじい**」と呼ばれ、敬愛されていたと伝えられています。

しかし、**あるとき持病の発作で倒れ、一命は取り留めたものの、後遺症が残り、身体が不自由になりました。**その知らせを受けた**次男の三島勘左衛門**さんは、1791年に新島へ渡り、父の看病にあたりました。

その後、甚兵衛さんは約2か月にわたって床につき、罪人の身分のまま新島で波乱に満ちた生涯を閉じました。享年85歳。飛騨では、ちょうど美しい紅葉の季節を迎えるころでした。

時を経て、平成7年には新島村の議会議員の皆さんが三島家を訪れたことをきっかけに、荘川と新島との交流が始まりました。そのつながりは現在まで30年以上にわたって続いています。

上木甚兵衛さんが1775年に新島へ流されてから250年。甚兵衛さんと次男・三島勘左衛門さんの親子の物語、そして荘川と新島を結ぶ歴史は、今も現代の子どもたちへと大切に受け継がれています。

新島村役場にて



甚兵衛さんのお墓参り

荘川に来て感じたこと | 岩下 正枝

荘川町で見守った キセキレイの奇跡

巣作りから巣立ちまでの一幕

① 春の音

窓を開ける季節。
野鳥の音が、
癒しの音楽のように響く。



② 軒先に巣

軒先にキセキレイの巣を発見。
黄色い小鳥のつがいが入り出す。



③ ヒナの成長

巣の中では2羽のヒナが成長。
親鳥は毎日せっせと餌を運ぶ。



④ 危機一髪

ある日、体長約2mのヘビが
巣の前に接近。夫が木の枝で
追い払う。



⑤ 無事に巣立ち

数日後、2羽のヒナは元気に巣立ち。
荘川町で起きた小さな奇跡。



自然の中では、今日も生存競争がある

身近な場所にも、命をつなぐドラマがある。

窓を開けて過ごすこの季節、外からは様々な野鳥の声が聞こえてきます。それはまるで癒しの音楽のようです。

ひと月ほど前、間近で鳴く声がするので外に出てみると、いつの間にか軒先に鳥の巣が作られ、2羽のキセキレイが忙しく出入りしています。森や山地の溪流沿いに棲み、「奇跡の鳥」や「幸運をもたらす」メッセンジャーと言われている黄色い可愛らしい鳥です。そっと巣の中を覗いてみると2羽のヒナが育っているようです。つがいの2羽は毎日せっせと餌を運び、巣を出入りしています。

私たち夫婦は彼らが警戒しないように巣に近づかないように見守っていました。そんな中、**いつもと違う警戒しているような騒がしい鳴き声**が聞こえます。どうかしたのか外へ出てみると、なんと体長2メートルほどのヘビが巣の直前に迫っています。慌てて夫が木の枝を使いヘビを振り払うと、ヘビは川の方へ飛ばされていきました。追いかける夫。必死に逃げようとするヘビ。威嚇の声で鳴き続ける親鳥。息をのんで見守る私。数日後、**親鳥と同じ程に成長した2羽のヒナは無事、巣立っていきました。**

荘川町での「奇跡」の一幕のようでした。私たちの身近で様々な**生存競争**が繰り広げられています。